

原稿執筆要領

(2006年1月30日, 2008年2月18日, 2010年9月30日, 2014年9月1日改正)

1. 原稿

- a) 原稿は, ワードプロセッサ等を用いて A4用紙縦置きに横書きする。
- b) 1 ページ当たりの文字数は, 全角25字×24行を目安とする。
- c) 行間に十分なスペース, 上下左右に充分な余白(30mm 以上)をとる。また, 図表を除く和文表題から引用文献, 図の説明までの全ての行の左に通し番号を付ける。
- d) 漢字・ひらがな・カタカナは全角文字, アルファベット, 記号, および算用数字は半角文字で入力する。日本語文の句読点は全角の「,」と「。」を使用し, 「・」も全角とする。特殊文字, 組み文字等は使用しない。
- e) 原稿は, 原則として Microsoft Word で保存し, 全角・半角ともフォントは MS 明朝, 12ポイントとする。原稿ファイルは, 電子メールの添付ファイルとして投稿するか, CD-R に保存し, 事務局に郵送してもよい。紙原稿の場合は, コピー2部(計3部)とともに, 事務局宛に送付する。いずれの方法でも, 投稿票を必ず添付する。
- f) 電子投稿の場合には, ファイル名を第一著者氏名とする。郵送 CD-R には, 第一著者名, 表題(短縮してよい), 保存ファイル名を明記する。

2. 原著論文・総説・その他原稿

- a) 第1頁に和文と英文の表題, 著者名, 所属および必要な脚注のみを記す。
- b) 第2頁にアブストラクトとキーワードを記す。
- c) 第3頁以降に本文を記す。本文の構成は, 緒言, 材料および方法, 結果, 考察, 引用文献とするが, 必ずしもこれに完全に一致しなくてよい。引用文献の後に改ページして図の説明(Figure caption)をつける。
- d) 表, 図は本文後に付ける(本文・表・図は1つの原稿ファイルとし, 別ファイルで添付したものは受け付けない)。

3. 表題・著者名

- a) 表題は, 簡潔かつ内容を的確に表しているものとする。
- b) 副題がついたシリーズの場合, 主題は第1報と

完全に一致させる。特に仮名書き, 漢字書きに注意する。副題につける番号(第1報, 1, I など)も前報に従う。副題は番号だけでなく必ずタイトルをつける。

- c) 英文表題は和文所属の後に, 一行空けて記載する。
- d) 英文表題に引き続き, 改行せず, 英文著者名を記す。
- e) 表題, 副題, 英文表題は太字またはゴシック体とする。

4. 所属機関および所在地

- a) 著者名に続く所属機関名は括弧内に正式名称で書き, 略称を使わない。ただし, 本文内では略称を使ってよい。また「農林水産省」などの国の所属機関の省庁名は入れない。県の所属機関のうち, 県庁については「庁」をつけず県名部署名とする(例: 福岡県農政部)。防除所は全て県名を入れる。試験場・大学は場所名・学部名(施設名)までとし, 研究室名は書かない。
- b) 複数の著者が異なる機関に属する場合, 同じ所属の著者ごとに右肩に同一の上付き番号(半角の数字, 括弧, コンマ: 1), 2), ...)を付け, 対応する所属機関の左肩に同じ上付き番号を付ける。
- c) 転出後の所属機関を書く場合は, 姓名の右肩にアスタリスク(全角の*, **等)をつけ(上付き番号の次からスペースなしで続ける), 原稿第1頁の最下欄に脚注として和文で現在の所属, 英文で現在の所属・住所を書く。和文では「*現在所属」, 英文では「*Present address: 所属, 住所, 国名」と記載する。
- d) 責任著者(Corresponding author)の姓名の右肩に“+”(剣印・ダガー)を付け, 原稿第1頁の脚注最上段に e-mail アドレスを記載する。

*ダガー入力方法(MS-IME 2007の場合)

- ・「挿入」⇒「記号と特殊文字」⇒MS 明朝選択の場合。フォント:(現在選択されているフォント); 種類: 装飾記号; 文字コード: 271D; コード体系: Unicode (16進)
- ・ショートカットキー: 271D とタイプし, Alt+X で変換

e) 以下に例を示す。

† abc@offrc.ne.jp

* 現在 所属

** 現在 所属 (アスタリスクと現在の間は半角スペース)

* Present address: 所属, 住所, 国名

** Present address: 所属, 住所, 国名 (アスタリスクと Present...の間は半角スペース)

5. アブストラクト

a) 原著論文には英文または和文のアブストラクトを付ける。アブストラクトの長さは英文の場合200語以内、和文の場合400字以内とし、改行はしない。

b) 文献の引用、図表位置の指示、謝辞は入れない。

c) アルファベット表記の単語が2行にわたる場合は次行に送り、ハイフンを用いない。

6. キーワード

a) 英語で5語程度とし、アルファベット順に列記する。英文タイトルに含まれる語は除く。

b) **Keywords:** とした後に小文字で記す。ただし、学名、地名の初めの文字、略称等は大文字で記す。**"Keywords:"** は太字またはゴシック体とする。

c) 挿入位置はアブストラクトの後に一行空けて記す。

7. 本文

a) 数字は算用数字、年号は西暦とし、漢字はなるべく常用漢字を用いる。送り仮名の付け方や用語は同一論文内で統一する。

b) 試験で用いた動植物名は標準和名を用い、本文での初出時に学名と命名者名を記し、2回目以降は混乱の生じない限り、属名を大文字1字とする。学名には下線を引いて、イタリック体であることを示す。sp., spp., var. はイタリック体としない。他のイタリック体表記の単語もこれに準ずる。イタリック体であることを示す以外の目的では、文字、単語に下線を引かない。品種名は「」で括って示す。未登録品種、系統名についても同様にする。

c) 小見出しは、一字下げた後、算用数字の番号、ピリオド、小見出しのタイトルの順に書く。

d) 本文、図表ともに数値には3桁ごとにコンマを入れる。

e) 農薬名は本文、図表ともに原則として一般名を用いる。

f) 本文中での図表の指示は、図表が和文の場合は第1図、第1表とし、英文で書かれている場合は Fig. 1, Table 1 のように書く。

g) 単位は国際単位系 (SI) に準拠する。当面使用できる非 SI 単位等は: min (分), h (時間), d (日), y (年), a (アール), ha, t (トン), μ l, ml, L (リットル) などである。

h) 統計学の記号等は次の表示に統一する (大文字か小文字か、イタリックかローマ字か、ピリオドを付けるかどうか等に注意する)

大文字イタリックに注意: P , F , U , R , R^2

ローマ字, ピリオド無しに注意: df, SE, SD, ns

イタリックに注意: t , r , r^2

8. 文献

a) 本文中での引用は「著者名 (年号)」又は「(著者名, 年号)」とする。

b) 共著者については2名の場合は全員を、3名以上の場合は第1著者名に「ら」を付けて他を省略する。英語論文の場合は「ら」でなく、「et al. (イタリック体としない)」を用いる。

9. 引用文献

a) 引用文献のリストには本文中に引用した文献は必ず挙げる。引用されていない文献は挙げる。

b) 第一著者名の ABC 順に配列し、著者名は全員を記す。第一著者が同じ場合は、第二著者以降の ABC 順に従って記す。同一著者かつ同一年の場合は、年号の後に小文字アルファベットを付けて区別する (例:1996a, 1996b)。本文中の引用もこれに準ずる。

c) 講演要旨の引用はなるべく避ける。引用する場合は、該当文献の文末に、和文講演要旨の場合は (講要)、英文講演要旨の場合は (Abstr.) と明記する。

d) 欧文雑誌名はイタリック体としない。

e) 1語の雑誌名は省略しない (例: Ecology, Nature 等)。略記する場合には、和文誌は日本自然科学雑誌総覧又は日本農学進歩年報に、欧文誌は World List of Scientific Periodicals または Biological Abstracts, Index Medicus に従う。

f) 年間に複数が発行され、通し番号を採用していない雑誌では、巻の後に括弧で号数を示す。

g) 原則として日本語、日本語姓・名、姓と名前の字間、著者名間の・は全角。括弧、ページ間のハイフン、コロン、カンマ、ピリオド、英字、数字、記号等はすべて半角、括弧の前後、半角コロン・

カンマ・ピリオド等の直後には半角スペースを入れる。ただし、pp. とページ数の間にはスペースを入れない。

h) 以下に例を示す。

①単行本の場合

Pianka, E. R. (1978) 進化生態学, 原著第2版 (伊藤嘉昭監修, 久場洋之・中筋房夫・平野耕治訳). 蒼樹書房 (東京), pp.420.

Sokal, R. P. and F. J. Rohlf (1981) Biometry: The Principles and Practice of Statistics in Biological Research, 2nd ed. Freeman (N.Y.), pp.859. (副題は「:」でつなぐ, pp. は総頁数。括弧内は出版社所在地。)

渡辺龍雄 (1980) 熱帯の果樹と作物の病害, 第2版. 養賢堂 (東京), pp.308.

②単行本中の分担執筆論文の場合

Falk, D. R. and D. Nash (1972) The search for auxotrophic mutants in *Drosophila melanogaster*. In: Insect and Mite Nutrition: Significance and Implications in Ecology and Pest Management (Rodriguez, J. G. ed.). North-Holland Publishing Company (Amsterdam) : pp.19-31.

(論文表題の文末にピリオド「.」を打ち, 「In:」とした後に, 参考となった本の表題を記す。編者が1名の場合はed.とし, 2名以上の場合は, eds.とする。)

平嶋義宏 (1986) 昆虫の形態. 新応用昆虫学, 三訂版 (斎藤哲夫・松本義明・平嶋義宏・久野英二・中島敏夫著). 朝倉書店 (東京) : pp.11-22. (共著者で分担執筆者が明記されている箇所から引用する場合は, 分担執筆者名とその分担頁と表題を示し, 章番号などは示さない。)

岡田斉夫 (1986) 天敵微生物による害虫の防除・微生物と農業—農業の未来をひらく微生物 (岸 國平・大畑貫一編). 全国農村教育協会 (東京) : pp.187-201.

佐々木紘一・異議田和典 (1987) ダイズ紫斑病耐病性育種. 我が国における豆類の育種 (小島陸男編). 農林水産省農業研究センター (つくば) : pp.92-108.

③雑誌などの定期, 不定期逐次刊行物の場合

Kendall, W. L. (1999) Robustness of closed capture-recapture methods to violations of

the closure assumption. Ecology 80: 2517-2525.

Kendall, W. L. and J. D. Nichols (1992) On the use of secondary capture-recapture samples to estimate temporary emigration and breeding Proportions. J. Appl. Stat. 22: 751-762.

Kendall, W. L., J. D. Nichols and J. E. Hines (1997) Estimating temporary emigration using capture-recapture data with Pollock's robust design. Ecology 78: 563-578.

菖蒲信一郎・善正二郎・松崎正文 (1998) 佐賀県における斑点米を発生させるカメムシ類の水稲及びイネ科植物での生息状況. 九病虫研会報 44: 45-49.

(同一著者が続く場合, 省略しない。同一雑誌が続く場合も同様とする。)

④インターネットのサイトの場合

農林水産省 (2007) 農林水産統計情報総合データベース <http://www.tdb.maff.go.jp/toukei/toukei> (2007年11月5日アクセス確認)

(できる限り直接情報が表示される URL を記す。また, 最新のアクセス年月日を括弧書きで併記する。)

10. 表

- a) 表はその表題を上段に記し, 1 表ずつ A4 サイズの用紙に書く。
- b) 表には縦罫線を使用しない。
- c) 表は英文で書くことができる。表の表題は和文, 英文とも, 文末にはピリオド (.) を打たない。下段の注釈にはピリオドを打つ。
- d) 表の注釈は, 表中の関連語句の右肩に上付き文字で順に付け [a), b), c), ...], 表の下欄で説明する。ただし, 下欄の a), b), c) は添字としない。

11. 図

- a) 図は1図ずつ, A 4 サイズの用紙に描く。製版時は横幅7.3cm (一段) もしくは15.3cm (2段), 高さ最大22cm となるため, 縮小により線や文字が不明瞭にならないよう注意する。
- b) 写植を要する文字は図中に印刷するか, 鉛筆で明瞭に記入する。
- c) 図は英文で書くことができる。図の説明は別紙にまとめて記載し引用文献の後に付ける。図の表題は和文, 英文の場合とも文末にピリオド (.)

を打つ。注釈がある場合は、表題の後に改行せずに続ける。文末にピリオドを打つ。和文文末には（。）を打たない。

d) 地図には方位および距離のスケールを入れ、必要な地点名を書き入れる。

12. 最終原稿の提出

a) 論文受理が通知された場合、速やかに最終原稿を編集幹事に提出する。

b) 最終原稿は、投稿時と同様に、電子メールの添付ファイルとして提出する。CD-Rに保存して事務局に郵送してもよい。プリントした写真を用いる場合は、その旨を記した説明書きとともに編集幹事に郵送する。

c) 図および写真は、鮮明なものを用意する。

d) 上記に従わない場合は、トレース等にかかる実費を請求する場合がある。

13. 投稿原稿・CD-Rは、特に申し出がない限り返却しない。

14. 講演要旨

講演要旨原稿は、表題、著者名、所属、本文の順に空白行を入れずにそれぞれ別の段落に記述し、本文450字以内とする。本文中では改行しない。原稿は原則としてMicrosoft Wordの形式で保存し、電子メールの添付ファイルとして提出する。CD-Rに保存し、期日までに郵送したものを受け付ける。様式等の詳細は、九州病害虫研究会のホームページ記事に従うこと。

15. その他

この原稿執筆要領に記載されていない点については、本会会報の最新号およびホームページ記事を参照するか、編集幹事に直接問い合わせる。